

平成 24 年度最終報告書

被助成団体名	特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会
事業実施国	バングラデシュ
実施事業名	バングラデシュ・ノルシンディ県における障害者のエンパワメント支援 に対する専門家派遣事業
コード番号	12-A-237
助成額	200,000 円
助成期間	平成 24 年 11 月 1 日～平成 25 年 11 月 1 日

1. 活動の目的

この事業は、バングラデシュ農村部において障害者の社会的・経済的な生活向上プロジェクトを実施する NGO 団体 PAPRI (Poverty Alleviation through Participatory Rural Initiatives) に日本の障害分野の専門家を派遣し、必要な助言や技術指導を行うことによって障害者への支援活動の充実を目指すものである。

バングラデシュでは 2001 年にバングラデシュ障害者福祉法が成立し、また 2007 年の国連障害者権利条約批准を機に障害者関連法の整備を進めている。しかし実際のサービスは障害者のニーズを満たすには十分ではない。

PAPRI の活動地であるノルシンディ郡の農村部では行政サービスが未整備であり、また貧困が障害をうみ障害が貧困に繋がるという連鎖が顕著な現象となっている。PAPRI はこの地域で障害者・非障害者双方に住みやすいコミュニティ作り目的として、障害者に対する職業訓練の提供、スポーツ活動や文化活動の開催、障害児の就学支援、家庭訪問によるリハビリテーション、障害者の当事者グループの設立、マイクロクレジット等多様な活動を展開してきた。こうした活動を通じて明らかになってきたことは、障害者だけでなく周囲の人々、すなわち家族、地域住民、さらに行政関係者等への意識啓発の重要性であった。

そこで、開発における障害分野の意識啓発活動に関するアドバイスを得るために、日本において CBR (Community Based Rehabilitation : 地域に根ざしたリハビリテーション) の普及活動に取り組んでいる JANNET (障害分野 NGO 連絡会) の上野悦子氏を派遣することとした。PAPRI の活動も CBR に基づいて実施されてきていることから、適切なアドバイスが得られることが期待された。

2. 活動の内容と方法

専門家の上野悦子氏には PAPRI の下記の活動を視察し、スタッフとのミーティングへの参加およびフィードバックを行ってもらった。

- (1) 地域住民への啓発活動

農村部の集落において、障害者への差別や偏見を除去するために行われている、紙芝居や対話を通じた啓発活動を視察し、その内容と課題について検証する。

(2) 障害者グループとのミーティング

PAPRI のコーディネートによって結成された障害者グループとの懇談を通じて、今後の活動内容の深化と方向性を見出す。

(3) 地方行政への訪問と連携のあり方

障害に関する治療や診断を行っている病院、および障害者認定と支援の給付を行う地方行政部署に訪問し、行政サービスの実態と PAPRI との連携について検証する。

(4) 家庭におけるリハビリテーション

在宅でのリハビリテーションを提供する PRT (Primary Rehabilitation Therapist) に動向し、サービスの内容と家族を含めた社会資源の状況を把握する。

・活動の実施経過

PAPRI への訪問にあたり、上野氏とは事前に情報提供や派遣内容の確認等を行った。バングラデシュへの渡航にはシャプラニール職員2名が同行した。さらにバングラデシュではシャプラニールダッカ事務所長および現地職員と合流し、下記のような活動を行った。

2013年1月6日(日)	pm	ダッカ到着。シャプラニールダッカ事務所にて担当スタッフとのミーティング
2013年1月7日(月)	am	PAPRI 事務所(ナラヤンプル)に到着/PAPRI による活動紹介
	pm	障害者グループとの懇談
2013年1月8日(火)	am	郡立病院と社会福祉事務所への訪問
	pm	障害者グループと懇談 地域住民への啓発活動及び障害児家庭訪問(PRT 視察)
2013年1月9日(水)	am	上野氏による視察の振り返り/PAPRI スタッフへのフィードバック
	pm	ダッカ到着
2013年1月10日(木)	am	CDD (Centre of Disability Development) スタッフとのミーティング
	pm	ダッカ市内の障害関係 NGO5 団体との会食 シャプラニールダッカ事務所職員との最終ミーティング
2013年1月11日(金)	am	ダッカ出発

・活動の成果

この事業は、PAPRI の障害者支援活動のなかでも啓発活動に焦点を当てて、専門家による評価をもとに、活動全体の質的向上と今後の方向性を確認することを主たる目的とした。

上野氏からのコメントは、障害者はこれまで開発に加わる機会から取り残されてきたため、障害者と周辺の人々双方の意識の壁を取り除くことが最も難しい、というものであった。

同時に上野氏からは、PAPRI 独自の метод論を作っていくことへの期待が寄せられた。上野氏は啓発活動を含む他の活動を視察によって、PAPRI の強みをいくつか明らかにした。それらは①活動のリーダーの熱意があること、②地方政府からの信頼が厚いこと、③豊富な社会開発の経験を持つこと、④障害者の自助グループ支援を実施していることである。上野氏は、これらが障害者の生活向上プロジェクト全体を進めていくための大きな資源になり、それぞれの活動の質を高めることが、啓発活動自体をも向上させることに繋がるとまとめられた。また啓発活動はこれまで見過ごされてきた障害者を発見する機会にもなりうることが示唆された。

今回の専門家の訪問は多くの人々に利益をもたらした。障害者グループのミーティングではメンバーがいつも以上に積極的に発言をし、それに対する専門家のフィードバックがメンバーをエンパワメントしたと思われる。

シャプラニールにとっても上野氏の派遣が大きな学習体験になった。とりわけ、障害者支援に関する CBR の応用や、障害者支援に関する視点を学ぶ機会を得た。また、上野氏のアジアに広がる人脈を通じて、ダッカ市内の障害関係 NGO 団体との良好な関係を構築することができた。

・今後の課題

障害児・者への支援活動は、直接的支援とともに障害者をとりまく環境上の障害を取り除くことや、暮らしの変化を鑑みた長期の取り組みが必要である。そのため支援活動の時間的・地域的な展開を想定しつつ、現在の活動を組み立てることが重要である。

PAPRI は今回の専門家の派遣によって、障害者自身だけでなく家族の社会参加の重要性に気づく機会を得た。これを実際の支援とするために、PAPRI スタッフには CBR の理解をさらに深めるとともに、地域での様々な活動から得た知見をどのように障害者支援に反映させていくかが鍵になるであろう。とくに障害児・者へのケア提供者としての母親への支援、さらには家族全体の安定を目指した支援策の構築が望まれる。

PAPRI は長期間にわたってシャプラニールのパートナー団体として良好な関係を維持している。シャプラニールは今後も PAPRI に対して適切なアドバイスや支援を提供し、シャプラニール自体も、障害者問題に関する意識を高めていきたいと考えている。

ⁱ CBR(Community Based Rehabilitation)は、途上国の農村に住む障害者に対して、地域社会にある既存のさまざまな資源を活用することにより、ニーズに応じたリハビリテーション・サービスを提供する方法であり、1980年代初期に WHO などによって開発された。